

平成 27 年度第 2 回高知県職業能力開発審議会小委員会 議事録（概要）

1. 日 時 平成 27 年 8 月 6 日（木）
2. 場 所 高知県共済会館 3 階「桜」
3. 出席委員 【小委員会委員】
筒井早智子 吉野祐一 西岡良介 泉井安久 西山正晃
(敬称略・順不同) (5 名)
【オブザーバー委員】
二宮久美 大西孝枝 中山和恵
(敬称略・順不同) (3 名)

4. 内 容

(1) 第 1 回小委員会のふりかえり

○事務局から、第 1 回小委員会が出された意見等について説明。

○質疑意見等

(委員長)

ただ今、事務局から第 1 回小委員会のふりかえりについて説明があったが、ご意見等いただきたい。

(委員)

先日、高知校を視察し、本館、実習場、寮などの施設、それから、前年度のコーディネーターの方も出席してくださって、お考えなどを聞かせていただき、非常に参考になった。

4 番目の支援体制について、コーディネーターの方からのお話を聞いたが、やはり、配置が 6 ヶ月というのはいかにも短い。できれば通年。同じ方が、やはり、新しいところを、企業をほりおこされたり、それから、回を重ねる毎にそういったところともコンタクトもとれたりできる。そういうためには、年間通して雇い入れることが必要ではないか。それから、何年かは継続してやっていただく、そういったことも大事ではないかというふうに思う。

それともうひとつ。生活相談員の方の配置も、できれば、もうちょっと日数を増やすなどしていただくと、なお訓練生にとってはいいのではと感じた。

(事務局)

対応できるところから対応していきたい。

(委員長)

他に意見が無いようなので、この事については、このままで良いということで取りまとめさせていただきます。

(事務局)

本日、議論を進めていく中でご意見等があれば、後ほどでもかまいませんので、ご意見いただけたらありがたい。

【事務局から議事について一括説明】

(2) 高等技術学校の入校生確保について

○質疑意見等

(委員長)

まずはじめに、高等技術学校の入校生確保について、ご意見等いただきたい。

(委員)

内容が結構盛りだくさんであると思うが、それに対して予算というのが40万5000円というのは結構少ないなというふうを感じる。いろんな行事をやるのは、数をやっても費用をかけなければ中途半端に終わってしまう気がする。この広報については、そこをまず感じたところ。

(委員長)

総合技術展やものづくりフェスタに出す必要も含めて40万5000円なのか。

(事務局)

あいにく、そういった経費を特別見込んでおらず、学校の一般経費の中で何とか、場合によっては民間企業にご協力をいただき、展示物を運んでいただいたりなど、工夫している。40万円は印刷物を製作する程度の費用。

(委員長)

広報用の予算はこれだけということですね。

(事務局)

考えられるものは一定何でもやってみようということで行っているが、今、取り組んでいるものは、ありきたりのものにとどまっていると思っている。

他県を調査すると、ここに書き示させていただいたように、一般の各種学校がしきりにやっているPR方法、メディアに出して、折り込みを入れて、それで、オープンキャンパスだとか、色んな誘引をしているところ。本県でそこまでのことができていのかなということを考えながら、今回ご審議いただこうと思っているところ。

(委員)

適切な時期にスポットで高等技術学校のPRができるようにすれば、大分効果が出るのではないか。普段は、コーディネーターさんが色んなところに行っているのでも、そこでもPRができています。

ちょっと予算が必要になるが、中吊り広告も効果があるかもしれないし、ラジオを利用していくのもよろしいかと。お金が必要な広報とサービスでしてくださる広報と両方ありますので、そういうのをうまく利用してPRを、短い時間でもこういう学校がありますよというふうなので流させてもらったらどうかなと思う。

チラシなどを置いて、それが減っても、それで効果があったかどうか分からない。だか

ら、置かせてもらった後、コーディネーターさんがまわって、どうだったかということ（後追い）もされたら少し違うのではないか。

（事務局）

そういった取り組みも検討していく。

（委員）

チラシやパンフレットは一定興味のある方は手に取るが、なかなか、出かけている時に、それを手に取って持って帰ってはくれない。おそらく、その前の段階がすごく大事になる。

つまり、もっと広く色んな人に知ってもらうことが大事になる。広報、例えば新聞であるとか、テレビであるとか、ラジオであるとかというものは、おそらく効果的だと思うが、金額がかかるので、時期が大事。やはり、学校のスケジュールの中で、大体何月頃に出せば学生さんに響くとか、あるいは保護者さんにはどういう時期にアピールするといいいのかなというところを考える必要はある。そういうことで、やはり自然に入ってくるというのは大事。

存在がわかっていれば皆さん来てくれる、そういう存在すらあまり認知をされていないということがひとつあると思うので、広く興味が無い人に、ああ、そうなんだ、そういうのがあるんだ。じゃあ、うちの子供はとか、孫はとか、そういう進路があるんだというようなことを認知してもらう意味では、それはものすごく有効だと思うし、県の広報するような場、広報誌も使われていると思いますが、時期の良い時にそういうところを活用していく。

単独での広報になると、なかなか見てくれないので、他のもので見るときについて見ていただくような広報のやり方も大事。

就職した卒業生がここでも、ここでも働いていますというかたちで、よく専門学校が広告しているが、卒業生や生徒さんの顔が見えるような広告をしたほうが、身近に感じていただける。

（委員）

車に乗っている人はラジオをよく聞いている。先日、無料でラジオ番組を活用した。15分ほどの出演だったが、たくさんの方に声をかけていただいた。

新聞・ラジオ・テレビの活用をはかるのは良い取り組みである。

（事務局）

ラジオについての広報は実施しているところ。単純なお知らせとは違った、ラジオ番組もあるが、競争率が高く、実施に至っていない状況。

教育委員会と連携を図り、ものづくり教室についての広報を実施したところ。これにより応募は200人近くあった。配布したのは4年生、5年生だけになるが、必ず持って帰ってくれる。近い将来、参加いただいた子が進学だとか就職になったとき、効果が出るを期待している。

新聞折り込み、1枚3円20銭。高知市内だけで所帯が1万5000。これに配る費用を考え

ると相当安くやれている。本校でないと、そういったことはできない。そういった創意工夫もさせていただいているところ。

(委員)

新聞を活用し、学校紹介をした事はあるのか。

(事務局)

第1回審議会の資料でお示ししたような、レーシングカーの寄贈や中村校での社殿の建替え等、各種取り組みについては掲載いただいている。

(委員)

新聞は結構見られている。テレビもインパクトはあるが、タイミングが合わないと効果が出ない。しかしながら、新聞は個々のペースで見たり読んだりできる。よって、新聞で、もうちょっと目に入るようなとりあげ方があればよいと思う。

(事務局)

「学校の顔が見える新聞への広報の仕方」というようなかたちで整理させていただき、検討していく。

(委員)

学園祭などは実施しているのか。

(事務局)

実施していない。他県では地元の産業祭などと抱き合わせで実施しているところがほとんど。

(委員)

高知県の広報番組に載るチャンスがあれば非常によいのではないか。一般の方も結構見ている。

(委員)

中村校で実施しているオープンキャンパスの参加者が非常に少ない。補強する必要があるのではないか。

やはり、パンフレット、チラシ等の作成を強化する必要がある。

(事務局)

オープンキャンパスに来た方の半分が受験をしている状況。この取り組みについては、学校の訓練内容を十分に理解いただくためのもの。参加者を増加するには、複数回の実施も検討していく必要がある。

(事務局)

中村校については中卒者がかなり多く入校しているところ。オープンキャンパスの案内については、全県の高校、中学校に郵送を行い、中学校については個別に先生が訪問し、8月の夏休みに実施しているところ。訪問において、中学校の先生方の意識が、まず高校へということで、存在そのものを知らない先生方がいる。そういった先生方にもPRしていく必要があると考えているし、高卒の方も入校させるような取り組みもしていかないと

ないという意識もある。

(委員)

以前は、建築系の人材を育成する機関は複数あったが、現在は中村校ただ一つ。こういった状況も踏まえて、受入れ体制というものをもっと真剣に考えていただきたい。

(事務局)

中村校のほうで引き続きその部分を担っていきたいというふうに考えている。

(委員)

バスの広告は、場所によっては見られてないと聞いたことがあるので、電車を使用した広報のほうが、より効果があると思う。

いずれにせよ、効果の高いものから実施していくことが重要ではないか。

(事務局)

広告の手法についてはいただいたご意見を参考にしながら、どういったやり方が効果的なのかというのは、改めて考えていきたい。

(委員)

ターゲットを誰にするかが重要になる。ターゲットが高校生になるのであれば、高校生側の意見はどうなのか。どういう状況で彼等は情報収集して高校卒業したあとの進路を決めているのかというところを考えたら、おのずとその広報の仕方というのも見えてくるのではないか。

もし、中高生をターゲットにしているのであれば、取り組み方法としては、やはり中吊りはあんまり見ないのではないか。電車をよく利用するが、中高生は皆、下を向いて携帯を手にとっている。意見にも出ていたように、やはり耳から入ってくるのが一番だと思うので、テレビとかラジオとかそういったもので高知高等技術学校、中村高等技術学校という名前を繰り返し出していくのが一番彼等の耳には残るんじゃないかと思う。耳に残ることで選択肢のひとつにも残ってくるのではないかと思う。

(委員長)

進路担当者の意見を取り入れる必要があるし、高校生をターゲットにするのであれば、ホームページでの広報が有効。オープンキャンパスも効果的と考える。

(委員)

ターゲットの話だが、保護者の意見もかなり強力にあると思うので、周辺の保護者の方もターゲットにする必要があるのではないか。

ターゲットを絞るのも大事だが、その周辺も巻き込んでしていくのがより効果的ではないか。

(委員)

配布されているスキルアップガイドは県内の職業訓練などが網羅されていて、非常に分かりやすい。

(委員長)

女性向けのチラシ作成といった項目があるが、訓練内容自体が、女性にすごく魅力があるものなのかということも大事ではないか。そのためには、アンケートを取るなどして、カリキュラムの変更をしていく必要もある。

現在のカリキュラムは、企業さんの意見を取り入れたものとなっているが、受ける側にとっても魅力的なカリキュラム内容というのを何かもっと入れていかないと、入校を希望する人がなかなか出てこないのではないか。

オープンキャンパスには、女性の方は参加されたのか。

(事務局)

今年は女性の参加者がなかった。

(委員長)

まず、オープンキャンパスに女性の方が来られるような広報を大人目線ではなくて、もうちょっと子ども目線でしていくことも検討すべきではないか。

(委員)

女性は、やはり、事務系のきれいな職種におさまるところを考えると、どうしても大学進学になっていく。その方達の中から、そっちじゃなくて、こっちのほうが楽しいと引き込んでくる方法、そういう広報の仕方というのを考える必要があるのではないか。

このチラシに書かれているのは、学校に入ってみたら、こうだよ、楽しいよというだけで、ここに入ってみて卒業してみたら、どんな仕事に就けて、どんなふうに分を高めていけるのか、そういうところまであれば、ああ、じゃあ行こうかな、手に職をつけようかなと思うのではないか。そういう方法もあるのではないか。

(委員長)

フェスタ等のイベントの実施、中吊り広告で通学中の学生への周知を検討。様々なメディアを使っての幅広い広報をおこない、入校生確保を図るということでまとめさせていただく。

(休 憩)

(3) 高等技術学校の訓練実施体制の充実について

○質疑意見等

(委員長)

続いて、高等技術学校の訓練実施体制の充実について、ご意見等いただきたい。

(委員)

女性用の各種施設は必要。

(委員長)

現在、実習場の共用トイレを女性専用トイレに改修するのは決まっている。更衣室等は、本館に1箇所あるとのこと。寮については、先日、視察に行ったが、かなり古い感じでど

うなんだろうかというご意見もその時にあったと思う。このままでいいんだろうかという
ような、そのへん皆さんはどうお考えなのか。

私は、トイレはあったほうがいいのかなと。それは、女性のトイレはちゃんとないと、
入校した方も困るだろうなと思うので。このままもっと訓練生を増やすというのであれば、
当然、実習場にも女性用トイレがあるべきだなと思うので、それはやっていただきたい。

中村校のほうは女性訓練生の在校生が1人ということだが、トイレは本館1階に1箇所。
こちらは充分じゃないということで資料に書いてある。

あと、寮のほうは、このあいだ見た感じだと、建て替えというのは、先ほど予算的な話
もあって無理だということだったので、内装の改修や個室化等ができ得ることなのかなと
思う。

今時、2人部屋というのも、どうなんですかね。今は個室が普通ではないでしょうか。
あと、エアコンが無い。ちょっとそれは大変だなと思う。是非エアコンも設置してもらい
たいということを委員会の意見として、出したいと思う。個室化とエアコンの設置を両方
していただきたい。

(委員)

この施設の現状というところの校舎の女性用施設について。方針として女性の入校生を
増やすということでしょうから、当然、女性用の施設は充実をはかっていくべき。ただ、
費用もあると思うので、どれから順番にやっていくか。それは懐具合と相談してやるとい
うことになろうかと思う。

ただ、女性ばかり増えても、我々商売柄、求めているのは高等技術学校、技術を身に付
けた、実は男が多く欲しいので、そこのところもやはり守ってもらいたいというふうにし
う。

この前、見学した時、寮も見たが、広さとしては充分であると思った。ただ、4人部屋
に1人で住むというのは非常に不便かなというふうにしたので、今、委員長がおっしゃ
ったような内装の改修、それは必要のように感じました。それと、エアコンがやはり欲し
い。

女子寮については、もうちょっと様子見かなというふうには思う。

(委員)

今、入居者数がそれほど多くないが、これは、もともとそれぐらいしか希望がないのか、
もったきれいだったら、もっと入寮希望者が増える事も予想される。改修したら今度は、
部屋数が足りないという問題がすぐ出てくるので、そのへんの兼ね合いがあるのかなとは
思う。2人部屋を1人で使うのは、たまたまそれぐらいの希望者しかいないだけであって。
きれいにしたら今度は2人部屋を2人で使わないといけないという、また別の問題が出て
くる。

一番の理想は、全部きれいにしてもらったらいいんでしょうけど、できるできないとい
うことで言うと、家賃補助という方法があるかもしれない。

(委員長)

借り上げまではいかなくても何か補助するよなということですか。

(委員)

一定の距離以上の人という条件をもちろん付けないといけない。

(委員)

入寮条件について現状を教えてください。

(事務局)

一応、高知市隣接の市町村よりも遠いところという基準をおいているが、空いている場合には、家庭の事情でという方も入っていることはある。

経済的に恵まれている方は自分でアパートを借りているケースが多い。ただ、決して、極端に高知県の家賃が高いわけでもないの、近くに県立大もあって、学生アパートとかというのは月額3万5000円とかからあるので、それを考えると、2万円の食費を払えるのであれば、何かしらの支援策があれば、東京のような高額ではないので、家賃補助等について検討の余地はある。

(委員長)

寮については、そういう何か民間のほうのということで、住宅支援とかということも今後検討できないかどうかですかね、そういうことをちょっとご検討いただくということよろしいのかと思う。

施設整備について、現在、整備を考えている事項はあるのか。先の会で、カリキュラム変更するようなことも聞いたような気がするが。

(事務局)

学校の中で、少しカリキュラムの変更の検討を始めているが、機器の導入を新たにする必要はないと考えている。

在職者訓練で色んな機器を使つての工場内での検査だとか、それから、いわゆる仕上がったものを確認するためには、やはり最新の検査機器を備えてないと、受講生の資質がどれだけ上がったかというのは、ものさしがない、正確にないというのはちょっと困りものだなと思っている。

例えば溶接であれば、超音波探傷器を持っているが、メーカーさんによって全然使い方が違って、各会社が違った種類をいくつも使っているから、我が校で使っているものだけでは少し、今後、受講者を増やすためには足りないのかなと。日産とトヨタで全く違うのであれば、日産とトヨタ両方持っていないと訓練にはならない。いっぱい自動車、持っているわけですけども、最新型のやつは、例えばハイブリッドを買いました。色んな衝突防止の入った車、もらいました。けど、もらうだけではやはり追いつかないので。今後色んなものを購入していく必要がある、という話は現実にある。

古いのを使っていると言われる場面もあるが、民間の社員が来て、会社にある素晴らしい機械を使う前に、汎用の機械でよくよく理屈を理解しておかないと、高度な機械を使

えないからということで汎用の機械を使っている部分はあるんですが、もうそれにしても、ちょっと更新しないといけないというようなものもあったかもしれないという危惧をもっている。

(委員)

今、おっしゃられたとおりでと思うが、機械を扱うことは基本だが、その結果がどうであるか、やはり検査機器、これは用立てていかないと意味はなくなりはないけど、薄くなる。この前、機械を見た。あれはあれで、まだ充分使えるし、在職者のために設備を新たに入れる必要はない。

あと、検査器具は見えなかったのでわからないが、無ければ整備をしていただきたい。

(委員長)

是非、そのへんは整備していただきたい。

(事務局)

補足します。中村校に女子寮は一応あります。ただ、十数年使用されていない。使うのであればかなり補修しないといけない状況。

(委員)

県の規定等で寮を作らないといけないというのが決まっているのか？

(事務局)

特にない。

(委員)

ないのであれば、住宅支援等に変更して、施設改修や津波対策に充てるとか、そういうこともありかなと思う。

(事務局)

そういう検討をされるのはいいと思うが、中村校の場合、近くにアパートもそれほどないため、寮がなくなると、大変困ってしまう方がでてくる。現在、1人沖縄県から入ってきています。来年度の希望ということで、問い合わせが沖縄県の方からもあって、他の県と比較した時に、寮があるのが有利だなということを言っている方もいる。

また、現在、2人部屋がどうかということを言われましたが、もともと中村校も4人部屋として作られた施設です。部屋の中に二段ベッドが2つある。二段ベッドの上を取っ払って2人部屋にしているが、人数が少ないので1人部屋で使用している。このご時世に2人部屋はどうかという意見も出ました。ただ、1人で生活をようせんということで、2人組みで生活している組も1組おりますので、今の子でも2人で生活することについて、支障がないケースもある。

今、13名在寮している、来年3月に2年生が出て行っても、10名1年生が残るので、来年の入校生が多くなると2人部屋をつくらないといけないという状況になってくる。

(委員長)

若干の改修工事をすれば、使えるのか。

(中村高等技術学校校長)

見積りをしてみないと分からない状況。

(委員長)

エアコンとかはある？

(事務局)

いや、ない。

(委員長)

エアコンはつけてあげたほうがいいような気はする。

(事務局)

そういう要望は聞いたことは無い。

(委員)

寮には扇風機はあるのか？

(事務局)

ある。

(事務局)

夏休みは寮生もいないので、そこまでまだ要望がないのかもしれないが、また2学期に入ってきたら、またそういう話が出てくるのかもしれない。

(委員)

やはり、かける費用に対しての効果や、それから先ほど、人件費についての話が出た途端にちょっと方向が変わってきたかなと思うが、これはまたちょっとペンディングで、次回にでも協議したほうがいいと思う。

(委員長)

それでは、寮については次回へ持ち越しとする。

それでは、次の資料3ページ、訓練実施体制の充実についての指導員体制について、審議していく。指導員数については基本的に訓練生10人に対して1人の指導員が指導を行っている。さらに、非常勤を各科に1名配置しているところ。

また、研修については毎年何名かずつ、調整を行いながら研修に行っている状況であるということが資料に載せられている。

指導員数については十分に安全に訓練を実施するという意味で、これくらい的人数であると聞いているので、このへんについては特段、今まで支障がなければこのままの体制でということなのかなと。

研修のほうは、今後やはり技術がどんどん進歩していくので、遅れをとらないように研修も受けていただきたい。ポリテクセンターの先生もできるだけ研修に行って、最新の技術を身につけるとか、自分の幅を広げて色々やれるようにしてもらって、カリキュラムも変更していくとか、そういうようなこともやっている。今年勉強して来年は新しいカリキュラム、あとは外部講師の先生をお願いしているところは、自分で担当できるようにする

等、そういうようなことを目指しているので、できるだけ研修の機会は色々な場所で研修はできるところがあると思いますので、広めていただければいいのかなど。

ちなみに、電気工事科の指導員はしばらく研修に行っていませんけど、何か理由があったのか。

(事務局)

電気工事科の場合、基本的なことに集中したカリキュラムとなっているため、このような状況となっている。

(委員長)

わかりました。このへんは、今後の対応に書いてあるとおり、引き続き継続いただくということをお願いします。

(委員)

非常勤の方が各科に1名配置されているが、勤続年数や経験年数はどういう状況か。

(事務局)

定年退職された方に来ていただいていることが多い。腕のある方は雇用延長で企業で仕事をしていたほうがたくさんもらえるので、なかなか来てもらえない。若い方は特にそうなるので、65歳を限界に考えているが、現実には次が見つからないので、特別にもう70近くになっても来ていただいている現実がある。それは本県だけでなしに、よその県も大変問題になっている。本県で唯一誇れるのは女性の、非常勤ですけど指導員がいるということ。そんな中で女性職員がいるのは非常に珍しいと思っている。

(4) 在職者訓練・委託訓練について

○質疑意見等

(委員長)

まずは在職者訓練について、ご意見等いただきたい。

私としては、ちょっと受講率が低いコースがあることが気になる。一定、企業さんや業界に行ってニーズ調査をされて、それに基づいて、在職者訓練を設定していると思うが、ニーズ調査をした時にどういうことを調査されていて、それをどうコースに反映させているのか、そういうことを聞いてみたい。人気がなかったコースは次の年はやめて、新しいコースをつくってないのかなとか、そういうことも聞きたい。

ポリテクセンターでは、毎年そうやっている。人気が無かったらもう来年はやめて次の新しいコースをやってみるとか、また時期的なものを検討するとか。やはり、お仕事がお忙しい時は企業さんも従業員を研修に出せないで、いつ頃の時期だったら、何月くらいだったら参加いただけるのかや土日がいいのか、平日がいいのかとかを検討するともっとよくなるのではないかと。

(委員)

企業ニーズに充分対応できない場合があると資料にあるが、そういった場合は、もう無

理だと断わらないといけない。

(事務局)

学校に機器が無かったりとか、それから、それを求められても対応できないというケースはどうしてもありうる。

ここで申し上げたかったのは、うちがもうちょっと努力をして、資格を持った指導員がいなければ外部講師に依頼をして補完する必要があるだろうといったことです。

また、近年、充足率が低く、設備的にも余裕があることから、事業者の皆さんが困っているところをひらってきて在職者訓練をしませんかということでやっている。少し企業さんからの現実のニーズと持ち合わせている経営資源とのギャップもあることから、ちょっと勉強させてくださいとかいった努力が必要な場合もある。

今後、一生懸命生徒を集めてきて、充足率があがった時、今までのような余裕がなくなってきましたが、このときに、来年、倍にやりましょうというようなニーズがあった場合には、対応できない状況が生まれる。

(委員)

苦しいところでしょうけど、出来るだけのことをしてあげて、駄目な場合にはだめですと。私共の会社は結構、在職者訓練を利用させてもらっています。柔軟な対応をしてもらっていますので、この在職者訓練を今後とも、この前の会の時にも申し上げたんですけど、引き続き実施いただきたいというふうに思う。

(委員長)

今後の取り組みについては、こちらのペーパーにあるとおりでよろしいのかなと思う。

(委員長)

次に離職者訓練について、ご意見等いただきたい。

こちらの委託訓練のほうは、実施内容についてはうしろの資料を見ると、1000人ぐらいの定員に対して、900人以上の入校者がいますので、ほぼ問題ないのではないかと。就職率もすごい。

課題としてはメンタル面での問題を抱える方に対する体制強化が必要だというようなものと、それから、ニーズに対応した訓練コースをまぜていく、というような事を今後もやっていかなければいけないといったところ。

メンタルケアという意味では、おそらくここに書いてあるが、専門的な知識を有する人員の配置を検討していくというのは必要。

メンタルケアに関する研修もある。そういった方への対応は素人にはわからないので、研修も受けていく必要がある。

あとは、その時々々のニーズに対応した訓練コースを設定していく必要があるという課題があるということなんですけど。これは訓練受け入れ機関があまり無いということもあって、今後そういうことへの対応が必要だということですかね。

(委員)

受講料は、どこが負担するのか。

(事務局)

受講料については全て国から委託を受けた県が支払う。本人の負担はテキスト代等で 1 万円～2 万円くらい。

(委員長)

訓練コースの設定については、引き続きニーズを把握しながら設定いただきたい。

(委員)

プロポーザル入札に参加する企業および団体が少ない。ものすごく大きな課題だと思うが、これをどういうふうに今後していったらいいのか。訓練そのものを新しいものにすることを考えても、やっぱりこの入札に参加する企業・団体が増えるという可能性も何か少ないと思う。どういう方法を考えたらいいのかなと思って、先ほどから考えていたが、なかなか良い考えが浮かばないが、みなさんはどうか。

(委員長)

そうですね。例えばニーズがあって、参加したい企業さんがあったとしても、受講生があまり来なかったりすると、ちょっと 1 ヶ月 1 人 6 万円の委託料だと、それだけを単独でやるというのは、企業さんとしては勇気が居るのでなかなか引き受けてくれないというところが確かにある。委託訓練だけのために新たに設備を設けて、訓練をやろうとするとなかなか厳しいのかなと思う。

求人がある分野について、どんどんコースを設定してやれたらいいんですけど、なかなかやはりそこまで手が回らないといった現実があるのかなと思う。

介護系の企業は結構、自分のところにもっと人が欲しかったりすると、自分のところでそれが欲しいから訓練をやろうかなと行って、申し込んで来る可能性が結構ある。しかしながら、求人しているけど、なかなか人が集まらない。建設関係とかも結構そういう部分があったりするのかもしれないし、ものづくり分野についても、そういう分野が多い。

そういった事情もあるが、色々問い合わせするなどして、どんどん入りませんかという勧誘、働きかけをしていく必要はあると思う。

求人ニーズが高い分野を把握し、実施の可能性があるところをあたっていく。働きかけていく。分野がわからなければ色んな会議の場をもって、ハローワークにもいろいろ聞いて、どんな求人ニーズがあるのか、そのへんを把握していくことが大事である。